

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ほっとする、となり同士の笑顔、ともに暮らす、気の合う仲間、住めば都のほととぎす」とグループホームの名前にちなんだ理念をつくり、玄関ホーム内、事務所に掲示して理念の確認と方針を意識し、地域の中で暮らし続けることを支えていけるようにしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りの時に職員全員で復唱し、理念を意識して、入居者との生活を送るようにしている。また、地域の中でその人らしい暮らしができるか話あっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方に、面会時や訪問時に理念を説明し、ホームの方針を理解してもらい、家族や地域の方にも協力を願うように伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物で外に出かけた際、声をかけてもらっている。近所の家の方に認知症を理解してもらい、その協力により話し相手をしてもらったり、畑でできた野菜などを差し上げたり、もらったりするような間柄になっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の水路の掃除、地元の小学校や幼稚園との交流、毎月の小学校の登校時の旗持ち、あいさつ運動への参加、地元の文化祭への参加など定期的に交流ができています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>近隣に住んでいる方から相談を受けたり、家庭での暮らしについてのアドバイスなどをしたりしている。また、地域包括センターとも協力し合い地域で暮らすことができるように、認知症の理解を深めるような話し合いをしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で自己評価を行い、職員は外部評価での意見を前向きにとらえ、勉強会を開き、職員全員が評価を生かした具体的な方法を考えるようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者に状況やサービスの評価、意見などを交換し合い、サービスの向上に努めている。また、運営推進会議などでアドバイスをもらったことに関して、職員全員で話し合い、実践するための具体案を検討し、実行するようにしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外のときでも相談したり、ボランティアの活動に参加してもらったり、行事などに参加してもらえるように声掛けをしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などの研修に出かけ、必要な方には活用できるように支援している。現在、成年後見制度を活用している人もいる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法についての勉強会を定期的に行い、虐待防止のマニュアルを作成し、職員全員で話し合い、事業所での虐待防止について話合っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ホームの契約書、重要事項説明書を文章で説明している。利用者や家族などが不安や疑問点がある場合は、十分に説明し、納得をしてもらってから契約するようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見を大事に考え、職員で話合うようにしている。利用者の意見などが出やすいように、会話を増やし、信頼関係をつくるようにしている。推進会議の中でも話題としてアドバイスをもらっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、家族の方にホームでの生活の様子と写真を送付し、家族の方には状況を報告している。また、金銭管理については領収書と共に家族に使い道の報告をするようにしている。職員の異動については、家族会の時に説明するようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の中で意見を出してもらったり、面会時などに家族からの意見などを聞いたときには苦情受付に記入し、勉強会などの議題とし、問題意識を持ち対応するようにしている。また、家族の方には、相談窓口の説明をするようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングや勉強会を行い、職員の意見や提案を聞く機会をつくり、働きやすい環境、意欲の向上、質の確保につなげている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化などにすぐに対応できるような体制づくりをしている。職員が協力し合い、勤務の調整が図れている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が職員との馴染みの関係が続くように、職員の異動などは最小限にしている。やむを得ず、職員が交代する場合は対応の仕方などを職員全員で検討し、利用者へのダメージがないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が職員育成の重要性を認識しており、経験や習熟度に合わせてホーム内で勉強会を開催したり、ホーム外の研修に出かけ、職員の技術や知識が身につくようにしている。新しい職員には、認知症について新人研修を行ったり、指導担当と共に業務を行い、指導するようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、他のグループホームの状況を聞いたり、勉強会を行い、質の向上に努めている。また、グループホーム同士で他施設実習を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスを軽減するために親睦会を開いたり、相談しやすい環境にしている。ストレスを感じている職員には、他の職員がフォローしあえる仲間づくりに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に職員一人ひとりの努力でホームが成り立っていることを意識してもらい、運営者は職員の向上心が持てるような声かけをし、感謝の言葉をかけている。運営者も勤務に入り、勤務状況を把握している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に家族の意向を聞きながら、本人が不安に思っていることや希望などを十分に話せる機会を持ち、本人の思いを受け止めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談する家族の立場に立ち、家族からの話を十分に聞き、受け止めながら信頼関係を築いている。本人と家族との思いに違いなどが見られる時も、その家族自身の気持ちは受け止めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、家族の実情や要望を聞き、現在の必要なサービスについて何が困っているか、何が必要なのかを見極め、対応している。必要に応じて、他のサービスの利用の調整などの声かけをするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスが利用でき、ホームに慣れてもらえるようお茶などを飲みに来てもらったり、家族と一緒に話をするなど、本人が安心して暮らせるような雰囲気づくりをしている。本人や家族の意見などを聞きながら対応するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ことわざや昔の生活の知恵、一般常識などを教えてもらったり、食事の用意などをしてもらい、職員も家族の一員として生活を送るようにしている。職員が利用者に相談事などをして話を聴いてもらったりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にも職員が家族のような関わりを持って接し、家族の方とも悩みを分かち合い、共感するように話かけ、働きかけるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族の生活歴などを把握し、よりよい関係が築けるように支援している。不穏に陥りやすい入居者などには、面会の機会や家族と外出したりと家族の協力を得ながら、本人が安心して生活が送れるようにしているので精神的には落ち着いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や近所の方の面会は継続できるようにしている。墓参り、行きつけの場所などを本人が出かけられるように、家族に協力してもらいながら続けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が助け合ったり、利用者の悩みを聞いたりして、利用者同士が支え合い暮らしていけるように、職員はさりげなく援助を行っている。散歩時、車椅子の人を押してくれたり、興奮した利用者をなだめてくれたりする場面が自然と見られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後、他施設に情報提供を積極的に行い、家族の方や本人からいつでも相談を受けたり、遊びに来られる環境をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の思いや暮らし方の希望、意向を聞き、利用者本人の視点に立ち、職員全員で意見の交換をして、困難な問題にも取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人の生活歴や暮らしぶりなどを、本人や家族の方から聞くようにしている。また、日々の会話の中で発見することがあれば、職員全員に申し送りをして本人が安心して暮らせるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が利用者一人ひとりのできる力、分かることを理解し、出来ることが暮らしの中で増えていくように支援している。できたときなどは職員に感謝の気持ちを伝え、本人の意欲の向上に努めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がその人らしく暮らすために家族や関係者と話しながら介護計画をつくるようにしている。本人のできるところに目を向けた介護計画書としている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は期間にとらわれず、状況の変化に合わせた介護計画になるようにしている。状況の変化に応じ、本人や家族の意向を聞きその都度、介護計画の見直しを図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人の言った言葉、ケアの実践、結果、気づきなどを個別の記録に記入し、本人の思っていることなどを職員全員で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向、要望がある時は職員全員で話し合い、その時々に必要な支援の仕方を、本人や家族と十分に話し合いをしながら対応している。職員が継続的に支えることを大切に考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	住み慣れた地域で安全で豊かな暮らしが送れるように、民生委員やボランティア、警察、消防とも連携を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向などを聞き、在宅からのケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、本人が納得できるサービスが使えるように支援しているが他のサービスの活用はない。	○	本人、家族、他の事業者の方と相談しながら本人が望む暮らしが送れるように支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所のみでは解決できない困難な状況などに応じ、地域包括支援センターと連携を図りながら、個別の支援を行うようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師や希望する医師の医療を継続的に受けられるように支援している。事業者の協力病院をかかりつけ医とする場合には本人や家族に同意してもらい、安心して医療が受けられるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の人の医療に対して熱心で適切な指示や助言をしてくれる医師がおり、信頼関係を築きながら相談できている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護職員が常勤しており、気軽に相談しながら健康管理や医療的な支援を行っている。また、2週間に一度の往診時、看護師の方が来られ相談しやすい関係を築けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院したときに安心して過ごせるように、家族の方と相談しながら医療機関に本人の情報提供を行い、ケアについての話し合いをするようにしている。退院計画を病院関係者や本人、家族と話し合い早期退院ができるように支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について入居の段階から本人や家族と話しをしている。また、病状については常に主治医と連携を図りながら本人、家族の望んでいる生活のあり方を提供している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者に対して安心と安全を確保し、よりよく暮らせるように、職員全員で話し合い、家族の協力を得ながら本人が望む暮らしが続けられるように支援している。また、主治医、医療機関との連携を図り、取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対して本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫などの情報を詳しく伝え、別の場所に移り住んでも混乱などを起こさないような働きかけをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーの保護を徹底して、職員全員が個人情報の取り扱いについて認識し、秘密保持の原則を守るようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いが表せるような声かけを行っている。また、言葉で表現できにくい利用者には表情などをよく観察し、本人の気持ちを察するようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、本人がしたいと思っていることを聞き日々の暮らしがその人らしいものとなるように支援している。また、本人の希望や好みに合わせた援助を行うようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みや意向を聞きながら髪形や身だしなみやおしゃれを楽しめるように援助している。自分の行きたい美容院や散髪に出かけたりする。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の作業を利用者と共に行い、一緒に食事を味わいながら楽しい食卓になるようにしている。ホットプレートなどを使う料理では利用者が活躍してくれている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコやおやつ、飲み物など一人ひとりの希望を聞きながら、嗜好品を採り入れ、生活を楽しめるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のパターンを把握して、尿意や便意がなくなるようにトイレで排泄を行い、気持ちよく排泄できるように支援している。同姓の職員の介助を希望するものには、同姓職員が介助して羞恥心を大切にしているようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。利用者に無理強いすることなく本人が入りたい気持ちになるまで待ち、本人がくつろいで入浴ができるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状況に合わせて安心して休息ができた安眠できるように、生活の過ごし方などを職員や主治医と相談しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴などを把握し、食事づくりや食器洗い、洗濯干し、洗濯たたみ、草抜きなどの役割が持て、自分の居場所ができるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせて、小遣い程度のお金を自分で管理し、買物にでかけたりしている。自分で持ちたいという家族にも、毎月報告するようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物にでかけたり、散歩に出かけたり、外に出る機会を多く持つようにしている。ドライブなども好みよく出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の行きたい所などを聞き、個別に出かけたりしている。家族の協力もあり、外出援助してくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたいという時はかけてもらっている。内容などの確認は職員が行うようにしている。家族と電話で話すことで精神的に落ち着く利用者もいる。手紙や年賀状などの返事を書く利用者もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の馴染みの人たちが気軽に尋ねられるような環境づくりに努めている。面会時はゆっくり本人と話ができるようお茶などを出し、くつろいでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルを作成し、勉強会などで具体的な行為を説明し、身体拘束を行わないケアを職員全員で考え、対応の仕方を検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	心理的な不安や閉鎖感をなくし、家族も安心して訪問してもらえるようにしている。外に利用者が出たときは、横について歩いたり、さりげなく後からつくようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の動きやサインを察知するようにしている。利用者全員の様子をさりげなく常に見守っている。安全に生活が送れるように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を十分に理解し危険を防ぐために保管場所を決めている。管理の方法などは職員で話し合い、徹底するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員会をつくり、定期的に開催している。事故を未然に防ぐための方法を検討している。転倒を起こしやすい人には常に見守りをやっている。食事中にも見守りをを行い、窒息や誤嚥などが起きないように注意している。火災が起きないように火元の確認を常に行うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時や事故発生時に備え、応急手当の方法や初期対応に関して定期的に訓練をするようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練をしており、消火器の使い方や夜間の避難方法などを教わり、日頃から災害時に慌てず、避難誘導ができるように備えている。また、近所の方にも災害時には協力が得られるように声かけをしている。H19年11月に職員全員が救命救急の講習を受けている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者に予測されるリスクについて家族に説明し、十分に話し合い対策を考え、理解を得てもらっている。身体拘束については要望があった場合でも、行わない方針であることを説明し対応するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の様子をよく観察し、申し送りを確実にし、体調の変化は早期に気づけるようにしている。体調の変化のある場合には主治医に報告し、指示を仰いだり受診や往診などに来てもらっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服の用法、用量を理解しており、飲み忘れや誤薬などがないように注意している。食事ごとに薬を分け、飲む前に職員が名前、時間などを確認し飲んでもらっている。本人の状態の経過や変化は記録に残し、家族や医療機関に情報提供を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の管理を職員が行い、便秘とにならないような方法を考え、腹部マッサージや体操、運動などを習慣づけることにより、排便がスムーズに行えるようにしている。また、水分量などにも注意してこまめに摂取するようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔清潔をしてもらうようにしている。一人ひとりの口腔の状態や力量に合わせた対応で、習慣づけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の確認、栄養状態の確認を行い、月2回、体重測定を行っている。食事だけでは吸収率の悪い利用者には家族、主治医と相談し、時間に関係なく食事を摂ってもらったり、栄養補助食品を飲んでもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する勉強会をしたりし、正しい知識を持ち対応できるようにしている。手洗いは利用者、職員共に積極的に実施するようにしている。また、インフルエンザの予防接種も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や調理器具の消毒などをこまめに行うようにしている。新鮮で安全な食材を使用している。食中毒などの勉強会を行い職員全員で知識を持ち管理するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りなどに花を植えたり、建物は木造で利用者や家族、近隣の方が安心して出入りできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段自宅で使っているようなものを使用したり、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。季節の花を生けたりしている。建物も木造で暖かい感じである。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分が広くソファやテーブル、畳、中庭などがあり、気に入った利用者同士が思い思いに過ごせるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の方と相談しながら、使い慣れたものを用意してもらったりして、利用者が安心して暮らせる環境としている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	事業所内に気になる匂いが残らないように注意している。利用者にとって快適な温度や湿度が保てるように、こまめに温度調整を行っている。また、外気温との差があり過ぎないように注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように空間を広くし、車椅子でも自由に移動できるようにしている。また、手すりをホーム内、トイレ、浴室などにつけ安全に利用者が自立した生活が送れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が認識間違いや混乱が起きないように、柱に目印をつけたり廊下に電気をつけるなどして自立した生活が送れるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りや中庭を使い花を植えたり、水やり、洗濯干し、日向ぼっこなど気軽に玄関先や中庭に出れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームほととぎすは、NPO法人が運営しており運営者も勤務に入り利用者様と接し、介護の困難事例なども一緒に考え、よりよいグループホームにしようと考えている。利用者様が落ち着いて生活が送れるように小さな気づきも申し送りするようにしている。また、ホームは木造平屋建てであり、木や季節の花を植え室内も開放感があり、過ごしやすい空間づくりである。利用者様と共に暮らす生活を考え、職員も家族の一員のように接するようにしている。近隣の方との関係づくりにも積極的で馴染みの関係もできてきている。地域で支え合いながら共に生活が送っていただけるように、外出の機会も多くしている。ホームの中では利用者同士が助け合い、能力に応じた手伝いを職員と一緒にに行い活躍する場面づくりを大切にしている。職員は職員同士の助け合いにも力を入れており、働きやすく、楽しい職場になるように日々努力している。